

判綿（青梅綿）

一ヶ年所要高 九三六貫

北支綿ノ輸入極メテ少ク十一月以降ハ全然供給吐絶ノ状態ニシテ當地方ノ如キ極寒地ニ在リテハ丹前等ノ防寒具調製ニ困難トナリ憂慮シオレリ



(大 夕 段)

緊急ヲ要スル資材類

アイコフコンベヤI G型トトラフ 二〇〇枚

坑内電気安全燈(本多) 四〇〇ヶ <sup>14年/3月末</sup> 納期

同上ニ〇ヶ赤電柵 一臺 " " 納期

坑内電気安全燈 (本多) 三〇〇ヶ <sup>15年/3月末</sup> " "

ボルト螺切機用替陶 各種寸法共全口入手不能ニテ工場修理作業ニ甚大ナル影響ヲ來ス

アイコフコンベヤトトラフ 一二四枚 納期 14/9

本年十二月三至九日納入セズ結局材料入手見込無キタメ中山へ注文替エセリ

全 上 一〇〇 "

注文中

アイコフボルトフレーム 二五〇臺

内一五〇臺未納

全 上 八〇臺

注文中

アイコフコンベヤI 二四八〇米 <sup>納期 14/3 及 14/5</sup> 濟本、BEチヤーン、内二四〇米未納

アイコフコンベヤI大判 一〇〇〇米

注文中



鐵夫作業用品

軍靴	十二月			一月			二月			三月		
	軍	手	足	軍	手	足	軍	手	足	軍	手	足
	三二〇〇	一六〇〇〇	九六〇〇	二六〇〇	一六五〇〇	一〇〇〇〇	一三〇〇	一七〇〇〇	一〇〇〇〇	一三〇〇	一七〇〇〇	一〇三〇〇

軍手、軍足購入實績

昭和三十二年 一月一十二月	昭和三十二年 一月一十二月	昭和三十二年 一月一十二月	軍手(双)			軍足(足)			平均
			数量	一月平均	数量	一月平均	数量	一月平均	
一〇七八八〇	八九九〇	六四七二八	五三九四	一四九三	六〇一	三・六一	一人當	一人當	
二六九四〇	九七四三	七〇一六四	五八四七	一七六二	三・三三	三・三三			
三三二六〇	二二〇三	三三六〇	〇三三三	一九六二	一・〇七	〇・二六			

配給(食)ノ  
夕又夜夜ス



鐵鐵材使用高（割當高）減少狀況

出炭一應當	出炭量	壓延鋼材	昭和十二年(一月—十二月)	昭和十三年(一月—十二月)	昭和十四年(一月—三月)	十四年十月—十二月 暫定割當率
			使用實績	割當高	割當高	
			三、二一七〇〇〇	一、四八六〇〇〇	八二一、六〇〇	
			六三七、六七一	七一八、二四八	七四二、二〇〇	
			三四七七	二〇七三	一、一〇七	



參考

十五年三月一日

極秘

北支蒙疆石炭增產緊急對策（案）要領

興  
亞  
院



緊急對策	實施事項	擔當官廳	實施方策ノ進捗狀況
一、石炭部門及石炭輸送部門ノ優先取扱 二、炭礦會社ノ設立 三、石炭配給機構ノ整備 四、治安確保 五、輸送及資材關係	各動員計畫關係ノ優先取扱 割當關係ノ優先取扱 配給關係ノ優先取扱 本格的炭礦會社ノ設立尙情況ニ即應シ運營會社ヲ設立スルコト 軍ノ協力ニ對スル要望 (一)左記資材ノ配給順位ヲ内地炭礦用主要資材ト同等ニ取扱フコト (1)炭礦用主要資材 (2)鐵道用所要資材中石炭輸送ニ關係アルモノ(特ニ車輛用及路線用) (3)港灣ノ增強新設及石炭荷役	企 興 商 興 與 興 現地 企、商	措置ヲ要ス 實 施 中 措 置 ヲ 要 ス 促 進 中 研 究 中 實 施 中 ナ ル モ 尙 一 層 確 保 ス ル ヲ 要 ス 措 置 ヲ 要 ス



能力増進ニ必要ナル資材

(4) 石炭積込ライター及曳船用  
資材

(二) 石炭輸送用車輛ノ製造時期繰  
上

(三) 中古品及浚渫船ノ轉用轉設

(四) 輸出手續ノ簡易化及迅速化

(五) 配船及荷役ノ統制強化

(六) 關係各廳ノ連絡ノ緊密化

六、勞務關係

(一) 日本人技術者ノ増加

(二) 苦力募集事務ノ能率化及稼働  
率向上

(三) 食糧ノ供給

七、開採炭礦關係

(一) 中支向特粉及一號粉ノ對日振  
替

企、  
對滿

措置ヲ要ス

興、内、  
商

浚渫船ニ付テハ、  
交渉中

商、  
大藏

措置ヲ要ス

遞、陸  
商、興

實施中ナルモ更ニ措置ヲ  
要ス

企、厚

措置ヲ要ス

興

實施研究中

企、農

措置ヲ要ス

興

交渉中

大藏



(二) 所要資材ノ供給

企、商  
興、大藏

措置ヲ要ス



参考



昭和十五年三月

內地石炭増産緊急對策實施要領一覽

企

書

院



緊急基本對策	實施事項	擔當官廳	實施方策ノ進捗狀況
一 生力擴充計畫產業中 二 於テ當分の間石炭 部門ヲ優先的ニ取扱 フコト	1 各種動員計畫ノ設定並ニ實施 二 當リ石炭部門優先取扱ノ根 本方針ヲ採ルコト 2 右ノ方針ハ中央地方ヲ通シ豫 旨ノ徹底ヲ圖ルコト 脚東地方廳ニ對シテハ適宜文 書等ヲ以テ示達スルコト	各企、關係 廳	方針決定ノ上ハ直チニ實 施ニ移スモノトス
二 企業採算ヲ考慮シテ 積極的増産ヲ行ハシテ 必要ニ應ジ増産命 令等ヲ發動スルコト	1 適正炭價ヲ決定シ又ハ獎勵金、 助成金ヲ交付スル等ノ方策ヲ 講ズルコト 2 本項ニ關シ要スレバ増産命令 ヲ發動シ之ガ爲生ジタル損失 ニ付テハ國家ニ於テ補償スル コト	商	具體案ヲ作成シ關係廳ト 接衝中 目下慎重研究中
三 炭質低下ノ防止ニ付 適切ナル措置ヲ講ズ ルコト	1 炭質優良ナル炭田又ハ炭礦ニ 對シ積極的増産ヲ圖ルト共ニ 凡ユル方法ニ依リ炭質低下ヲ 防止スルコト 2 不良炭ノ取締方法ヲ講ズルコト	商	目下準備中 目下研究準備中
四 石炭ノ配給機構ヲ整 備擴充シ配給ノ圓滑 ヲ圖リ以テ石炭ノ増 産ニ支障ナキヲ期スルコト	1 一元的配給統制會社ノ設立ヲ 急グコト 2 ブール平準制ニ於ケル石炭買	同、商 右	目下研究準備中 法案作成ヲ了シ議會提出 ニ付關係廳ト接衝中 2乃至4ニ付テハ右會社



<p>五 急速ナル増産ヲ目途 トシ新炭田ノ開發並 隣接鑛區ノ整理等 ニ關シ積極的ニ措 スルコト</p>	<p>1 北海道及樺太ノ新炭田ノ積極 的開發ヲ圖ルコト 2 隣接鑛區ノ整理ニ付積極的幹 旋ヲ爲スコト 3 本項ニ關シ要スレバ重要鑛物 増産法ノ規定ニ依リ積極的ニ 措置スルコト</p>	<p>同 右</p>	<p>目下調査準備中</p>
<p>3 配給統制會社ノ買上價格ニ炭 質ノ點ヲ充分加味シ以テ炭質 低下ヲ防止スルコト 4 石炭販賣取締規則ニ依ル販賣 指圖書ト購入許可書トノ關係 ヲ緊密ナラシムルコト 5 消費部門ヲ調査シテ炭種及銘 柄ノ可及的單純化ヲ圖ルコト</p>	<p>上價格ノ適正ヲ圖ルコト</p>	<p>同 右</p>	<p>目下調査準備中</p>
<p>同</p>	<p>同 右</p>	<p>同 右</p>	<p>經營ノ運用方針トシテ目 下研究中</p>
<p>同</p>	<p>同 右</p>	<p>同 右</p>	<p>目下研究中</p>



<p>七 滿洲國及支那ニ於ケル石炭ノ増産及輸送ニ對シ緊急措置ヲ要スル事項ニ關シ日本側ニ於テ協力ヲ要スルモ依ルニ付テハ本對策ニ</p>	<p>六 鑛業報國精神ノ作興ヲ關シ適切ナル措置ヲ講ズルコト</p>
	<p>1 増産成績優良ナル炭礦又ハ其ノ經營者ヲ表彰スルコト  2 炭礦優良勞務者及職員ノ表彰並ニ職務上ノ犧牲者ノ遺家族ノ慰問ヲ行フコト  3 各省共同現地調査團ヲ派遣スルコト  4 産業報國運動ヲ強化スルコト</p>
	<p>商 厚  企、關係 各廠 厚</p>
	<p>目下準備中  同 右  昨年十二月ヨリ今年一月三ヨリ既三回實施濟尙今後屢々實施スル豫定現在實施中ナルモ更ニ強化方考究中</p>



緊急勞務對策	一、炭礦勞務ノ充足ニ當リテハ在野力強テ充計畫者中一テ當分ノ間優先的ニ斡旋スルコト	二、炭礦勞務ノ特殊性ニ鑑ミ其ノ募集ヲ容易ナラシムル爲特別ノ措置ヲ講ズルコト	三、勞務給源涸渴ノ現狀ニ鑑ミ朝鮮人勞務者等ヲ移入シ炭礦勞務者ヲ充足スルコト
實 施 事 項	<p>1 地方總ニ對シ炭礦勞務優先主義ノ地旨ヲ徹底セシムル爲通牒ヲ發シ又ハブ口ツク協議會ヲ開催スルコト</p> <p>2 軍需勞務ト競合スル場合ハ地方噶厚生省ニ指揮ヲ仰ギ厚生省ハ陸海軍省ト協議ノ上充足順位ヲ決定スルコト</p>	<p>1 勞務募集從事者ノ募集行爲ヲ容易ナラシムル様各種許可事項ノ出事項ヲ整理簡易化スル爲現行ノ勞務者募集規則ヲ改正スルコト</p> <p>2 炭礦勞務ノ迅速適確ナル充足ヲ圖ル爲其ノ給源ノ開拓及募集ヲ指導スル專任職員ヲ職業紹介所ニ設置スルコト</p>	<p>1 昭和十四年度勞務動員計畫ニ基ク朝鮮人勞務者ノ移入ヲ促進スルコト</p>
擔當官總	厚	厚	厚、拓
實施方策ノ進捗狀況	準備ヲ進メツツアリ	目下立案中ナリ	拓務省ト既ニ折衝済



<p>五、荷役勞務ノ改善充實ヲ圖ルコト</p>	<p>四、季節勞務ノ利用及鑛業勤勞報國隊ノ活動ヲ計畫化シ炭礦ニ於ケル勞務不足ノ緩和ヲ圖ルコト</p>	
<p>1 荷役勞務供給機構ヲ改善スルコト 2 荷役勞務ノ供給ヲ確保スルコト</p>	<p>1 季節勞務ノ利用ニ付地域別、炭山別ニ計畫ヲ設定セシメ組織的ニ其ノ需給ノ適合ヲ圖ルコト 2 夏期及冬期ニ於テ鑛業勤勞報國隊ヲ組織シテ炭礦ニ派遣スルコト 右鑛業勤勞報國隊ハ市町村青年團、在郷軍人、工場等ヨリ選出シ又ハ一般ヨリ募集シテ組織スルコト</p>	<p>2 昭和十五年度ニ於ケル朝鮮人勞務者ノ移入ニ付十五年度勞務動員計畫決定ニ至ル迄ノ暫定措置ヲ速カニ協議決定スルコト</p>
<p>厚</p>	<p>厚</p>	<p>企、厚、拓</p>
<p>研究ヲ進メツツアリ 計畫ヲ進メツツアリ</p>	<p>立案ヲ進メツツアリ 計畫ヲ進メツツアリ</p>	<p>關係各廳間ニ於テ折衝中ナリ</p>



七、炭礦從業者中勤務者成績特ニ優秀ナル者ニ對スル功勞表	六、生産能率及稼働率ノ向上ヲ圖ル爲メ勞務管理ヲ刷新シ作業務條件ヲ適正ナラシムルト共ニ産業報國運動ノ普及強	1 炭礦勞務者ノ住宅建設ヲ促進スルコト	2 勞務者ノ地位低下ニ鑑ミ嶺山勞務者ノ設置、榮養ノ補給ニ努ムルコト	3 新入勞務者ニ對シ技術及安全ニ關スル教育訓練ヲ徹底スルコト	4 坑内通氣ノ改良等ニ依リ作業環境ヲ整備改善スルコト	5 坑内輸送機關ノ改良等ニ依リ坑内滞留時間ヲ可及的ニ實勞働時間ニ接近セシムルコト	6 從業者雇入制限令改正等ノ措置ヲ講ジテ勞務者ノ移動防止ノ徹底ヲ期スルコト	7 産業報國運動ヲ積極的ニ展開シ鑛業報國精神ノ徹底ヲ圖ルコト	同上	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚
	企畫院及商工省ト折衝ヲ進メツツアリ	勞務管理委員會ニ於テ具體策ノ研究ヲ進メツツアリ	研究ヲ進メツツアリ	計畫ヲ進メツツアリ	研究ヲ進メツツアリ												



彰  
制  
度  
ヲ  
實  
施  
ス  
ル  
コ  
ト







<p>四、炭礦用主要資材ノ配 給ニ付テハ炭田別及 炭礦別ニ更ニ重點主 義ヲ強ク化スルコト</p>	<p>三、石炭ノ荷役及輸送用 資材ノ供給ヲ確保ス ルコト</p>	<p>二、炭礦勞務者ノ住宅用 資材及生活必需品ノ 供給ヲ確保スルコト</p>
	<p>1 石炭ノ荷役及輸送ニ必要ナル 資材ノ供給ヲ確保スルコト セ、メント、釘、針金、炭車材 ヲ確保スルコト 2 石炭輸送用機關車及船舶用燃 料ノ供給ヲ確保シ殊ニ機帆船 用重油ノ供給ニ付遺憾無キヲ 期スルコト 3 若松、藤ノ木、榎、橋、所、要、資、材、ニ 付テハ關係各廳ト打合テ爲シ テ適當ナル措置ヲ講ズルコト</p>	<p>1 釘、針金及亞鉛鍍板、木材、 ガラス等住宅用資材ノ供給ヲ 確保スルコト 2 米、酒等ノ生活必需品ノ供給 ヲ確保スルコト</p>
<p>商</p>	<p>鐵 同 右</p>	<p>商 米 酒 一 一 一 大 農</p>
<p>之ガ具體化ニ付銳意考 究中</p>	<p>既ニ實施中ナルモ更ニ 遺憾無キヲ期スルコト 各廳ノ協力ヲ得テ完成 促進ニ努力中</p>	<p>具體的方策ノ準備ヲ進 メツツアリ 研究ヲ進メツツアリ</p>



<p>五          炭礦用主要資材ハ之          ヲ統制機關ヲシテ一          ノ的ニ購入セシメ其          期適正ナルコトヲ配給</p>	<p>炭礦物資配給統制機關ヲ設立ス          ルコト</p>	<p>商</p>	<p>中          目下實施ノ具體策準備</p>
---	--	----------	----------------------------------







三石炭輸送ノ現状ニ鑑	
1 石炭輸送ニ關スル連絡機關ハ	<p>4 (米) 可及的炭種ノ單一化ヲ圖ル        コトニ努メ        (ロ) 日、資、台、セ輸送ヲ出來得ル限        リ避ケルコト</p> <p>5 冬期間ニ於ケル北海道炭ノ水洗選炭ニ付テハ適切ナル措置ヲ講ジ改善ニ努ムルコト</p> <p>6 船積及荷揚地ニ於ケル荷役ヲ改善シ汽船及貨車ノ停泊時間ヲ短縮セシムルコト</p> <p>7 (イ) 配船ヲ適確ナラシメ        (ロ) 海陸輸送ノ連絡ヲ圓滑ナラシムルコト</p>
	<p>商、遞、鐵、</p> <p>商、</p> <p>遞、鐵、</p> <p>遞、鐵、</p>
本連絡機關ノ設置ニ關シ	<p>(イ) 規格ノ單一化ニ付テハ商工省ニ於テ調査準備中        (ロ) 荷主ト協議一部實施中        尚全般ニ關シテハ研究中</p> <p>目下研究中</p> <p>具體的實施方策ニ付研究中</p> <p>(イ) 海運統制協議會ニ於テ如上ノ方針ニ基キ統制シ居ルモ尙之ガ強化徹底ヲ期セんとスガ強化作</p> <p>(ロ) 現在關係ニ於テ連絡ノ實施ニ努メ居ルモ連絡ノ機關設置ニ關スルハ更ニ徹底シ底期スルコトヲ得ベシ</p>



ミ各廳關係官ヲ以テ  
石炭輸送ニ關スル連  
絡機關ヲ設置シ適正  
ナル輸送計畫ノ樹立  
ノ確立ヲ計ルコト

企業院、商工省、遞信省、鐵  
道省、拓務省、厚生省等ノ係  
官ヲ以テ組織スルコト

2 右連絡機關ハ中央ニ本部ヲ置  
キ必要ナル地方ニ支部ヲ設ク  
ルコト

3 右連絡機關ニ於テ、中央ト地  
方トノ緊密ナル有機的連絡ノ  
下ニ石炭ニ關スル適正ナル輸  
送計畫ノ確立及之ヲ計ルコト

シテハ關係各廳ト略諒濟ニ  
ニテハ協議スベシ



閣甲第五八號

案起

昭和十五年三月五日

閣議決定

昭和十五年三月八日施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣

廣田

內閣書記官長



內閣書記官 稻田

外務大臣

廣田

陸軍大臣

廣田

文部大臣

廣田

遞信大臣

廣田

厚生大臣

廣田

內務大臣

廣田

海軍大臣

廣田

農林大臣

廣田

鐵道大臣

廣田

大藏大臣

廣田

司法大臣

廣田

商工大臣

廣田

拓務大臣

廣田

別紙內閣總理大臣並農林商工拓務厚生四  
大臣請議生鮮食料品配給及價格



統制ニ関スル應急對策ニ関スル件

右閣議ニ供ス

指令案

生鮮食料品ノ配給及價格ノ統制ニ関ス  
ル應急對策ニ関スル件請議ノ通



企畫院上申第五三號

閣議請議

生鮮食料品ノ配給及價格ノ統制ニ關スル應急對策ニ關スル件

生鮮食料品ノ配給及價格ノ統制ニ關スル應急對策ニ關シ別紙ノ通  
決定スルノ必要アリ

右閣議ヲ請フ

昭和十五年三月五日

內閣總理大臣 米 內 光 政

農林大臣 島 田 俊 雄





内閣總理大臣 米内光政 殿

厚生大臣 吉田

茂



拓務大臣 小磯 昭



商工大臣 藤原 銀次郎





配給

昭和十五年三月四日  
關係參與會議決定

生鮮食料品ノ配給及價格ノ統制ニ關スル應急對策要綱

生鮮食料品ノ配給機構及價格ノ現狀ニ鑑ミ應急的措置トシテ六大都市等ニ對スル出荷竝ニ六大都市等ニ於ケル卸賣及小賣ノ配給機構ヲ合理化シ、各段階ニ於ケル口錢、手数料等ノ低減ヲ圖リ以テ價格ノ低廉ト配給ノ圓滑ヲ期シ國民生活ノ安定ヲ計ルハ焦眉ノ急務ト認メラルルヲ以テ此際左記ニ依リ之ガ對策ヲ至急實施スルモノトス  
尙出荷ニ付テハ内、外地ヲ通シテ行フコトトシ圓ブロツク地域ニ對スル統制ヲモ併セ實施スルコト

記

一、生鮮食料品ノ範圍ハ青果物（生蔬菜及生果實ヲ云フ以下同ジ）  
生鮮魚介類トスルコト

二、出荷ニ關シテハ可及的廣範圍ニ統制ヲ圖ルコトトシ、左記要領ニ  
ヨリ之ヲ實施スルコト

1 青果物



青果物ノ配給統制ニ關シテハ全國及地方ニ於テ主務大臣ノ指定スル統制法人（農會）ヲシテ左ノ事項ニ付所要ノ統制ヲ爲サシムルコト

(1) 出荷又ハ販賣先ニ關スル事項

(2) 出荷又ハ販賣ノ時期及數量ニ關スル事項

(3) 生産者ノ共同出荷事業及附帶施設ノ助成

統制法人ニ所要ノ權限ヲ附與シ又ハ配給統制委員會ヲ設ケル等右方策ノ實施ニ必要ナル事項ヲ臨時措置法ニ基ク省令ヲ以テ規定スルコト

## 2 生鮮魚介類

生産地ニ於ケル生産者團體ノ共同出荷事業並ニ附帶施設ヲ獎勵シ特ニ系統組織ヲ有スル團體ニ付テハ中央團體ノ統制ノ下ニ共同出荷ヲ行フ如ク指導スルト共ニ產地仲買人及漁業會社ニ對シテモ行



政的措置ニヨリ適當ナル指導ヲ加ヘ供給ノ確保配給ノ圓滑ヲ計リ併セテ價格ノ抑制ニ效果アラシムルコト

三、六大都市其ノ他特ニ必要アル地域ニ於ケル卸賣市場、小賣市場、仲買人、小賣商ノ價格竝ニ配給ニ關スル統制  
卸賣市場、小賣市場、仲買人、小賣商ノ組合等ヲシテ行政官廳ノ監督又ハ指導ノ下ニ左記ニヨリ價格ノ低廉竝ニ配給ノ圓滑ニ關スル方法ヲ講セシムルコト

#### 1 卸賣市場

(イ) 卸賣市場ノ卸賣人ノ販賣ニ付テハ買付品ハ一定ノ口錢ヲ見タル定價賣トスルコトトシ、受託品ニ付テモ必要ニ應ジ不當ノ騰貴ヲ抑制スル爲メ適當ナル措置ヲ講スルコト

(ロ) 卸賣人ノ販賣手数料ニ關シ歩戻ノ廢止、獎勵金ノ廢止、使用料ノ低減等ニヨリ手数料ノ低減ヲ爲スコト

(ハ) 荷卸料及場内運送賃ヲ低減スルコト



(ニ) 卸賣市場、卸賣人ノ產地買付ハ特ニ必要アル場合ノ外成ル可  
ク之ヲ制限スルコト

(ホ) 仲買人ノ販賣ニ付テハ口錢ノ最高ヲ定メシムルコト

(ヘ) 仲買人ノ専門化ヲ圖リ仲買人間ノ轉賣ヲ防止スルコト

2 小賣市場、小賣商

(イ) 小賣商ノ販賣ニ付テハ毎日標準價格ヲ決定セシメ之ヲ勵行セ  
シムルコト

(ロ) 小賣市場ノ使用料ノ低減ヲ圖ル等經營ノ合理化ヲ圖ルコト

(ハ) 小賣市場ノ普及擴充ヲ圖ルコト

(ニ) 共同運搬等共同施設ヲ奨勵スルコト

四 生産確保ノ施設ヲ講スルト共ニ生産確保ノ爲メ必要ナル資材ノ配  
給ヲ圓滑ナラシムルコト

五 輸送ノ圓滑、運賃ノ低減ヲ圖ルコト

六 消費節約ノ方法ニ付テモ充分考慮スルコト



備考 馬鈴薯、甘藷、葱頭、芭蕉實、苹果、柑橘類等價格統制可能ト  
認メラルモノニ付テハ之ガ價格統制ニ關シ農林商工及拓務ノ三  
省ニ於テ協議シ實情ニ即シタル特別ノ方式ヲ定メ之ヲ實施スルコ  
ト



参考

参照條文

輸出入品等ニ関スル臨時措置ニ関スル法律

第二條 政府ハ支那事変ニ関聯シ國民經濟ノ運行ヲ確

保スル為特ニ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其他

事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付在

措置ヲ為スコトヲ得

一、命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製成品

製造ニ関シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限ヲ為スコト

ニ當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給・譲渡使用

又ハ消費ニ関シ必要ナル命令ヲ為スコト

第三條 政府ハ第一條ノ制限若ハ禁止又ハ第二條ノ命

令若ハ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ帳簿



其他  
検査ヲ爲ス  
コトヲ得



極秘

發教見合也



閣第一〇七號

案起

昭和十五年三月二十八日

閣議決定

昭和十五年三月二十九日施行

昭和十五年三月二十九日

內閣總理大臣 乃

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

立

陸軍大臣

乃

文部大臣

立

遞信大臣

立

厚生大臣

立

內務大臣

立

海軍大臣

乃

農林大臣

立

鐵道大臣

乃

大藏大臣

立

司法大臣

乃

商工大臣

立

拓務大臣

乃

別紙企畫院總裁上申  
米穀、特別輸入並對北支小麥粉



供給ニ関スル件  
右閣議ニ供スル由

通牒案

昭和十五年三月五日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年三月二十八日企畫院上申第七三  
號上申米穀、特別輸入並ニ對北支小



麥粉供給ニ関スル件上申ノ通閣  
議決定相成候



閣甲一七

企畫院上申第七三號

昭和十五年三月二十八日

企畫院總裁

竹内可吉



内閣總理大臣 米内光政 殿

米穀ノ特別輸入並ニ對北支小麥粉供給ニ關スル件

國內ノ米穀需給並ニ北支ニ於ケル食糧問題ノ現状ニ鑑ミ米穀ノ特別輸入及對北支小麥粉供給ニ關シ別紙ノ通閣議決定相成様致度此段及上申候也

内閣

日本標準規格B5列

主任 第四部 青柳調査官

内閣

昭和十五年三月二十八日

米穀ノ特別輸入並ニ對北支小麥粉供給ニ關スル件  
ハ兩件トモ件名内容共彙表セザルハ勿論  
閣議決定アリタルトモ彙表セザルモノトス

日本標準規格A6列



# 極秘

41

米穀等ノ特別輸入ニ關スル件

- 一 米穀ノ特別輸入ニ付テハ昭和十四年十月三十一日及十二月八日ノ閣議ニ於テ決定アリタル處具ノ後ニ於ケル米穀事情ニ鑑ミ差當リ更ニ百五十萬石ヲ緬甸、タイ、佛領印度等ノ諸國ヨリ概ネ六月末日迄ニ輸入スルモノトス
- 二 右ノ外朝鮮ニ於ケル食糧事情ニ鑑ミ大麥五十萬石程度ヲ濠洲等ノ諸國ヨリ概ネ六月末日迄ニ輸入スルモノトス
- 三 輸入所要資金ハ五千萬圓（金額ハC、I、F價格ニ依ル）トシ中米穀ハ四千二百萬圓、大麥ハ八百萬圓トス
- 四 輸入所要資金ハ昭和十五年度物資動員計畫ニ於ケル軍需、官需及民需ヲ通ジ之ヲ負擔スルモノトス、尙、輸入所要資金ノ支拂ニ付テハ輸入資金ノ現狀ニ鑑ミ可能ナル限り六月以後ノ支拂ヲ増加スル様萬全ノ措置ヲ講ズルモノトス
- 四 米穀ノ蒐荷配給並ニ消費規正ニ付テハ前回決定事項中ニモ之ガ萬



全ノ措置ヲ講ズベキ旨決定セルモ單ニ必要數量ノ外米ヲ輸入スルノ  
ミニテハ米穀需給調整ノ目的ヲ達スルコト困難ナルヲ以テ本件決定  
ト共ニ關係官廳ニ於テハ米穀ノ蒐荷配給機構ヲ一層整備シ米穀ノ出  
廻リヲ促進スルト共ニ消費規正ニ付テモ更ニ徹底セル對策ヲ確立シ  
速ニ之ヲ實施スベキモノトス



# 極秘

41

對北支小麥粉供給ニ關スル件

- 一 北支ニ於ケル食糧問題ノ緊迫化ニ鑑ミ本邦ハ既定計畫分ノ外一千萬圓相當額ノ小麥粉（約七萬屯）ヲ至急北支ニ供給スルモノトス
- 二 右ニ要スル外貨資金ハ昭和十五年度物資動員計畫ニ於ケル軍需、官需及民需ヲ通ジ之ヲ負擔スルモノトス
- 三 本件實行ニ關スル具體的措置ハ關係官廳間ニ於テ協議決定スルモノトス



極祕文書配付票

企畫院上申第七三號別紙  
昭和五年三月二十八日

企畫院總裁官房文書課長



內閣官房總務課長 殿

貴廳宛左記文書配付致候間御查收、上領收票御送付相煩度候也

極祕文書

件名	及一連番號
未裁特別輸入用之件	自四一號至五七號
	十七部



40 名簿

46 35

有  
手原未為記  
一因派ナシ  
方格しよに者  
物、和ナト  
ウサレシモ  
ナリ

極秘文書配付票

企畫院上申第七三號別紙十二

昭和十五年 三月二十八日

企畫院總裁官房文書課長

內閣官房總務課長 殿

貴廳宛左記文書配付致候間御查收、上領收票御送付相煩度候也

極秘文書

件名	及一連番號
河北支小及務供用之件	自四一號至五七號
	十七部



内

密



# 極秘

40

對北支小麥粉供給ニ關スル件

- 一 北支ニ於ケル食糧問題ノ緊迫化ニ鑑ミ本邦ハ既定計畫分ノ外一千万圓相當額ノ小麥粉(約七萬屯)ヲ至急北支ニ供給スルモノトス
- 二 右ニ要スル外貨資金ハ昭和十五年度物資動員計畫ニ於ケル軍需、官需及民需ヲ通ジ之ヲ負擔スルモノトス
- 三 本件実行ニ關スル具體的措置ハ關係官廳間ニ於テ協議決定スルモノトス



米穀等ノ特別輸入ニ關スル件

一 米穀ノ特別輸入ニ付テハ昭和十四年十月三十一日及十二月八日ノ閣議ニ於テ決定アリタル處具ノ後ニ於ケル米穀事情ニ鑑ミ差當リ更ニ百五十萬石ヲ緬甸、タイ、佛領印度等ノ諸國ヨリ概ネ六月末日迄ニ輸入スルモノトス

右ノ外朝鮮ニ於ケル食糧事情ニ鑑ミ大麥五十萬石程度ヲ濠洲等ノ諸國ヨリ概ネ六月末日迄ニ輸入スルモノトス

二 輸入所要資金ハ五千萬圓（金額ハC、I、F價格ニ依ル）トシ中米穀ハ四千二百萬圓、大麥ハ八百萬圓トス

三 輸入所要資金ハ昭和十五年度物資動員計畫ニ於ケル軍需、官需及民需ヲ通ジ之ヲ負擔スルモノトス、尙、輸入所要資金ノ支拂ニ付テハ輸入資金ノ現状ニ鑑ミ可能ナル限り六月以后ノ支拂ヲ増加スル様萬全ノ措置ヲ講ズルモノトス

四 米穀ノ蒐荷配給並ニ消費規正ニ付テハ前回決定事項中ニモ之ガ萬



全ノ措置ヲ講ズベキ旨決定セルモ單ニ必要數量ノ外米ヲ輸入スルノ  
ミニテハ米穀需給調整ノ目的ヲ達スルコト困難ナルヲ以テ本件決定  
ト共ニ關係官廳ニ於テハ米穀ノ蒐荷配給機構ヲ一層整備シ米穀ノ出  
廻リヲ促進スルト共ニ消費規正ニ付テモ更ニ徹底セル對策ヲ確立シ  
速ニ之ヲ實施スベキモノトス



# 供覽

内閣官房總務課

企畫院一五物審第二六號

昭和十五年五月十一日

企畫院次長 植村 甲午郎



内閣官房總務課長

稲田 因一

殿

内閣書記官

消費規正ニ關スル件（閣議決定）送付ノ件

本日閣議決定相成候消費規正ニ關スル件茲許及御送付候條御查收相成  
度

尙右ハ新聞紙等ニ公表セザルモノナルニ付左様御含ミノ上御取扱相  
成度

関甲一五五

内閣



極秘

消費規正ニ關スル件 (昭和二五五二〇閣議決定)

現下ノ物資需給及物價ノ趨勢ニ鑑ミ生活必需品等ノ消費規正ニ關シ左記ニ依リ速ニ所要ノ措置ヲ講ズルモノトス

記

一、生活必需品ニ付テハ主トシテ大消費地ヲ對象トスル切符制ヲ考究スルコトトシ差當リマツチ及砂糖ニ付テ切符制ヲ實行スルコト

一、公定價格又ハ協定價格制アル物品ニ付キ規格外ノモノノ生産、製造及販賣ヲ禁止スルコト

已ムヲ得ザル必要アル場合ニ於テハ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケシムルコト

一、不急不要品又ハ奢侈贅澤品ノ生産、製造及販賣ヲ制限又ハ禁止スルコト

或ル程度ノ必要性アルモノト雖モ其ノ物ノ原材料ガ重要生産資材又ハ生活必需品資材ナル場合ニ於テハ右ニ準スルコト



已ムヲ得ザル必要アル場合ニ於テハ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケシムルコト





五

閣甲第五二號

案起

昭和五年二月十九日

決定

十七年三月一日

施行

年 月 日

內閣書記官



內閣書記官



案 (一)

昭和五年二月十九日 (二月十九日附)

各省次官

各省次官

樞密院書記官長

會計検査院長

行政裁判所長官

貴衆兩院書記官長

宛 (各通)

日本官制

甲三十三號

一、





賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル件

標記ノ件襲ニ閣議決定（昭和十五年內閣閣  
甲第三七號通牒）相成候處右決定ニ基キ政府

職員ニ付キテハ左記ノ通措置スルコトニ本日次官會議ニ於テ決定相  
成候條可然御配慮相成度候

記

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル閣議決定ノ趣旨ニ  
依リ扶養家族アル政府職員ニ對シ臨時手當等ヲ支給セントスル場合  
ハ原則トシテ賞與支給ノ際加算支給ノ方法ニ依ルコト

案 (二)

昭和十五年 二月二十九日（二月二十九日附）

內閣書記官長



企畫院總裁

法制局長官

宛（各通）

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル件

標記ノ件曩ニ閣議決定

（昭和十五年內閣閣  
甲第三七號通牒）

相成候處右決定ニ基キ政

府職員ニ付キテハ左記ノ通措置スルコトニ本日次官會議ニ於テ決

定相成候條御了知相成度

内閣書記官長

案（一）ニ同ジ

案（三）

昭和十五年二月二十九日（二月二十九日附）

内閣書記官長



內閣恩給、統計、印刷

東北、紀元二千六百年

祝典事務局長

賞勳局長

對滿事務局長

內閣情報部長

興亞院總務長官

宛（各通）

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル件  
 標記ノ件別紙ノ通彙ニ閣議決定相成候處右決定ニ基キ政府職員ニ  
 付テハ左記ノ通措置スルコトニ本日次官會議ニ於テ決定致候條御  
 了知相成度

全權詞彙 記



案(一)ニ同ジ

(閣議決定及閣議決定後事務執行ニ付)

案(四)

昭和十五年二月二十九日 (三月二十九日附)

内閣官房總務課長

内閣官房記録課長

宛(各通)

内閣官房會計課長

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル件

標記ノ件別紙一通ニ閣議決定

昭和十五年内閣閣  
甲第三七號通牒

相成候處右決定ニ基キ政

府職員ニ付キテハ左記ノ通措置スルコトニ本日次官會議ニ於テ決

定相成候條可然御了知相成度依命及通牒候

記



案(一)ニ同ジ

(閣議決定及閣議採解事項附録)

昭和十五年二月二十九日(二月二十九日附)

昭和十五年二月二十九日(二月二十九日附)

内閣書記官長

宮内次官宛

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル件

標記ノ件ニ閣議決定相成候處政府職員ニ付キテハ左記ノ通措置  
スルコトニ本日次官會議ニ於テ決定相成候條爲御參考申進候

記

案(二)ニ同ジ



賃金給料生活者ノ一部ニ対スル應急措置ニ関スル閣議決定ノ趣旨  
ニ依リ扶養家族アル政府職貧ニ対シ臨時手当等ヲ支給セントスル場合ハ  
原則トシテ賞與支給ノ際加算支給ノ方法ニ依ルコト



閣甲第三七號屬

案起

昭和

年

月

日

決定昭和

年

月

日

裁可昭和

年

月

日

昭和

年

月

日

了



閣書記官



案(一)

昭和十五年二月三日

内閣書記官長

樞密院書記官長

會計検査院長

貴衆両院書記官長

行政裁判所長官

宛(各通)



貨金給料生活者、一部對急應急措置關件  
標記、件別紙、通閣議決定相成候條、依命此段及通牒候  
追、本件、關件、閣議諒解事項、為念添付致候

(別紙添付、下)

案 (二)

昭和十五年二月三日

内閣書記官長

宮内次官宛

貨金給料生活者、一部對急應急措置關件  
標記、件別紙、通閣議決定相成候條、為念御卷及送付候  
尚本件、關件、閣議諒解事項、為念添付致候

(別紙添付、下)

榛原納



# 極秘

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル件

- 一、賃金又ハ給與ガ著シク低額ナル爲扶養家族アル低額ノ賃金給料生活者ニシテ生計ノ維持困難ナル者ニ對シ臨時手當特別賞與等ヲ支給セントスルモノニ付テハ賃金又ハ給與ニ關スル臨時措置令ノ運用ニ依リ之ヲ認ムルコト
- 尙右ハ嚴ニ必要已ムヲ得ザル限度ニ之ヲ止ムルコト
- 二、國及公共團體ニ於テモ右トノ權衡ヲ考慮シ必要アル場合ハ適當ナル措置ヲ講ズルコト
- 但シ既定豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ行フコト
- 三、前二項ト關聯シ生活必需品ノ價格ノ低廉ヲ期シ且ツ之ガ生産、出荷、配給ノ圓滑ヲ期スル爲至急具體的措置ヲトルコト



極秘

閣議諒解事項

一、 別途閣議決定ノ一ニヨル許可ノ標準ハ左記ニヨルコト

(一) 當該事業場ニ於テ指定期日直前ニ賃金ヲ相當程度一齊ニ引上ゲタルモノ又ハ其ノ賃金ガ同地方ノ同種事業ノ賃金ニ比シ特ニ良好ナルモノハ之ヲ除クコト

(二) 賃金ノ増給ヲ受クベキ勞務者ノ範圍ハ健康保險法第三條ノ規定ニ依ル標準報酬第十一級以下ノ者又ハ前收月平均七十圓以下ノモノニシテ十四才未満ノ扶養家族アルモノニ限ルコト

(三) 賃金増給ノ方法ハ基本給、請負單價等ノ引上ゲニ依ラズ臨時手当ニ依ラシムルコト

(四) 賃金増給ヲ許可スベキ程度ハ月額ニ付キ當該事業場ニ於ケル第二號該當ノ勞務者ノ數ニ二圓ヲ乘ジタル金額ノ範圍内トシテ各勞務者ノ受クル額ハ右總額ノ範圍内ニ於テ扶養家族數其ノ他ニ應ジ適當ナル基準ニ依リ定メシムルコト



(五) 前各號ニ依ル臨時手當ノ支給ニ代ヘ勞務者ノ生活必需品ノ實物  
給與(廉賣ヲ含ム)ノ方法ニ依リ生計費ノ増加額ヲ補給スルハ望  
マシキコトナルヲ以テ此ノ方法ニ依リ得ル場合ハ成ルベク之ニ依  
ラシメ前各號ニ依ル臨時手當ノ支給ハ許可セザルコト

(六) 給料生活者ニ對スル増給ニ付テモ亦右各號ニ準スルコト  
ニ 別途閣議決定ノ趣旨ハ眞ニ止ムヲ得ザル場合ニ限り例外的措置ト

シテ増給ノ途ヲ開カントスルモノナル處若シ政府ノ方針ガ漫然一般  
的増給ヲ認ムルニアルガ如キ印象ヲ與フル時ハ各方面ニ面白カラザ  
ル影響アルヲ以テ關係各廳ハコノ種ノ誤解ヲ生ゼシメザル様萬全ノ  
措置ヲ講ズルコト



極秘

閣甲 第三七 號

案 起  
昭和十五年二月十四日

閣議 決定  
昭和十五年二月十六日 施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣 乃

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣 西

陸軍大臣 西

文部大臣 西

遞信大臣 東

厚生大臣 西

內務大臣 本

海軍大臣 西

農林大臣 西

鐵道大臣 西

大藏大臣 本

司法大臣 西

商工大臣 西

拓務大臣 西

別紙企畫院總裁上申

賃金給料生活者一部ニ對スル應急



措置ニ関スル件  
右閣議ニ供スル由

通牒案(一)

昭和十五年二月十六日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

本月十四日企畫院上申第二四<sup>五</sup>號ヲ以テ上申  
係ル賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急



措置ニ関スル件上申ノ通閣議決定相  
成候

通牒案 (三)

昭和十五年二月十六日

内閣書記官長

各省大臣

法制局長官

宛(右通)

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措



置：關之件別紙、通閣議決定相  
成候條依命此段及通牒候

各節大目

内閣部官制

附：臨時

憲法

憲法

附：憲法



四

企畫院上申第二四<sup>五</sup>號

昭和十五年二月十四日

內閣總理大臣 米 內 光 政 殿

企畫院總裁 竹 內 可



主任 第五部 阿部調查官

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル件

賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關シ別紙一ノ通閣議決定相成様致度此段及上申候

尙別紙二ハ閣議諒解事項ト致置度

內閣



賃金給料生活者ノ一部ニ對スル應急措置ニ關スル件 (案)

一、賃金又ハ給與ガ著シク低額ナル爲扶養家族アル低額ノ賃金給料生活者ニシテ生計ノ維持困難ナル者ニ對シ臨時手當特別賞與等ヲ支給セントスルモノニ付テハ賃金又ハ給與ニ關スル臨時措置令ノ運用ニ依リ之ヲ認ムルコト

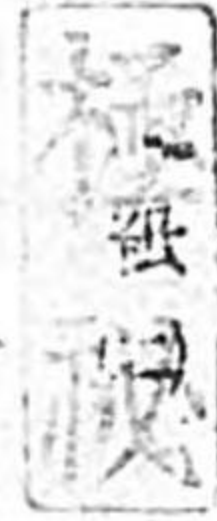
尙右ハ嚴ニ必要已ムヲ得ザル限度ニ之ヲ止ムルコト

二、國及公共團體ニ於テモ右トノ權衡ヲ考慮シ必要アル場合ハ適當ナル措置ヲ講ズルコト

但シ既定豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ行フコト

三、前二項ト關聯シ生活必需品ノ價格ノ低廉ヲ期シ且ツ之ガ生産、出荷、配給ノ圓滑ヲ期スル爲至急具體的措置ヲトルコト





閣議諒解事項（案）

別途閣議決定ノ一ニヨル許可ノ標準ハ左記ニヨルコト

(一) 當該事業場ニ於テ指定期日直前ニ賃金ヲ相當程度一齊ニ引上ゲタルモノ又ハ其ノ賃金カ同地方ノ同種事業ノ賃金ニ比シ特ニ良好ナルモノハ之ヲ除クコト

(二) 賃金ノ増給ヲ受クベキ勞務者ノ範圍ハ健康保險法第三條ノ規定ニ依ル標準報酬第十一級以下ノ者又ハ實收月平均七十圓以下ノモノニシテ十四才未滿ノ扶養家族アルモノニ限ルコト

(三) 賃金増給ノ方法ハ基本給、請負單價等ノ引上ケニ依ラス臨時手當ニ依ラシムルコト

(四) 賃金増給ヲ許可スヘキ程度ハ月額ニ付テ當該事業場ニ於ケル第一號該當ノ勞務者ノ數ニ二圓ヲ乘ジタル金額ノ範圍内トシテ各勞務者ノ受クル額ハ右總額ノ範圍内ニ於テ扶養家族數其ノ他ニ應ジ



適當ナル基準ニ依リ定メシムルコト

(五) 前各號ニ依ル臨時手當ノ支給ニ代ヘ勞務者ノ生活必需品ノ實物  
給與(廉賣ヲ含ム)ノ方法ニ依リ生計費ノ増加額ヲ補給スルハ望  
マシキコトナルヲ以テ此ノ方法ニ依リ得ル場合ハ成ルヘク之ニ依  
ラシメ前各號ニ依ル臨時手當ノ支給ハ存可セサルコト

(六) 給料生活者ニ對スル増給ニ付テモ亦各號ニ準スルコト

三 別途閣議決定ノ趣旨ハ眞ニ止ムヲ得サル場合ニ限り例外的措置ト  
シテ増給ノ途ヲ開カントスルモノナル處若シ政府ノ方針カ漫然一般  
的増給ヲ認ムルニアルカ如キ印象ヲ與フル時ハ各方面ニ面白カラサ  
ル影響アルヲ以テ關係各廳ハコノ種ノ誤解ヲ生セシメサル豫備全ノ  
措置ヲ講スルコト



朕賃金臨時措置令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十四年十月十六日

- 内閣總理大臣 阿部 信行
- 逓信大臣 永井柳太郎
- 厚生大臣 小原 直
- 拓務大臣 金光 庸夫
- 農林大臣 伯爵 酒井 忠正

勅令第七百五號

賃金臨時措置令

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ第六條ノ規定ニ基ク勞務者ノ賃金ニ關スル臨時措置ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ勞務者ト稱スルハ船員トシテ又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ從事スル爲ニ雇傭セラレ賃金ヲ受クル者ヲ謂フ但シ命令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク

一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他鑛物採取ノ事業

二 物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業(電氣、瓦斯又ハ各種

動力ノ發生、變更又ハ傳導ヲ爲ス事業及水道ノ事業ヲ含ム)

三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、破壊又ハ其ノ準備ノ事業

四 道路、鐵道、軌道又ハ索道ニ依ル旅客又ハ貨物ノ運送ノ事業

五 船渠、船舶、岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱ノ事業

六 土地ノ耕作若ハ開墾又ハ植物ノ栽植、栽培、採取若ハ伐採ノ事業其ノ他ノ農業又ハ林業

七 動物ノ飼育又ハ水産動物ノ採捕若ハ養殖ノ事業其ノ他ノ畜産業、養蠶業又ハ水産業

八 其ノ他命令ヲ以テ定ムル事業

第三條 本令ニ於テ賃金ト稱スルハ賃金、給料、手當、賞與其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ雇傭者ガ勞働ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

本令ニ於テ基本給ト稱スルハ定額賃金制ニ於ケル定額給又ハ請負賃金制ニ於ケル保證給若ハ單位時間給ヲ謂ヒ賃金基準ト稱スルハ獎勵加給、手當、實物給與若ハ命令ヲ以テ定ムル賞與以外ノ賞與ノ基準又ハ請負賃金制ニ於ケル請負單價、請負時間、歩合若ハ算定方法ヲ謂フ

第四條 事業ノ爲ニ勞務者ヲ雇傭スル者(以下雇傭主ト稱ス)ハ其ノ雇傭スル勞務

者ノ全部又ハ一部ノ賃金ヲ引上グル目的ヲ以テ昭和十四年九月十八日(以下指定期日ト稱ス)ノ基本給ヲ變更スルコトヲ得ズ

雇傭主本令施行前其ノ雇傭スル勞務者ノ全部又ハ一部ノ賃金ヲ引上グル目的ヲ以テ指定期日ノ基本給ヲ變更シタル場合ニ於テハ變更シタル基本給ニ依リ賃金ヲ支給スルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五條 指定期日後雇入ルル勞務者ニ付テハ其ノ雇入ノ際ノ基本給ヲ以テ指定期日ノ基本給ト看做ス

第六條 雇入後三十日ヲ超エザル試ノ雇傭期間ヲ定メタル勞務者ニシテ指定期日後其ノ試ノ雇傭期間ヲ終リタルモノニ關スル本令ノ適用ニ付テハ其ノ試ノ雇傭期間ヲ終リタル後ニ基本給ヲ定メタル時ニ於テ雇入アリタルモノト看做ス

第七條 雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ指定期日後雇入ルル勞務者ノ雇入ノ際ノ基本給ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ)ニ報告スベシ但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ報告シタル内規ニ依リ

内閣



雇入ルル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ  
地方長官前項ノ基本給ヲ指定期日ニ於ケ  
ル賃金ニ關スル實情ニ鑑ミ不適當ト認ム  
ルトキハ第四條ノ規定ニ適用ニ付雇入ノ  
際ノ基本給ニ代ルベキモノヲ定ムルコト  
ヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ定ムル  
モノヲ以テ指定期日ノ基本給ト看做ス

第八條 雇傭主ハ勞務者ノ雇入ノ際ノ基本  
給ニ關スル内規ヲ地方長官ニ報告スルコ  
トヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ報告シタル内  
規ヲ指定期日ニ於ケル賃金ニ關スル實情  
ニ鑑ミ不適當ト認ムルトキハ前條第一項  
但書ノ規定ニ適用ニ付之ニ代ルベキモノ  
ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方  
長官ノ定ムルモノヲ以テ第一項ノ規定ニ  
依リ報告シタル内規ト看做ス

第九條 雇傭主ハ其ノ雇傭スル勞務者ノ全  
部又ハ一部ノ賃金ヲ引上グル目的ヲ以テ  
指定期日ノ賃金基準ヲ變更スルコトヲ得  
雇傭主本令施行前其ノ雇傭スル勞務者ノ  
全部又ハ一部ノ賃金ヲ引上グル目的ヲ以  
テ指定期日ノ賃金基準ヲ變更シタル場合  
ニ於テハ變更シタル賃金基準ニ依リ賃金  
ヲ支給スルコトヲ得ズ  
前二項ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ  
ハ之ヲ適用セズ

第十條 雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國  
家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ指定  
期日ノ賃金基準ヲ地方長官ニ報告スベシ  
第十一條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ  
他ノ場所ニ於テ指定期日ニ賃金基準ノ定  
ナキ作業ニシテ同種又ハ類似ノ作業ニ付  
賃金基準ノ定アルモノニ關シテハ其ノ賃  
金基準ヲ以テ指定期日ノ賃金基準ト看做  
ス

指定期日ニ賃金基準ノ定ナキ作業ニシテ  
前項ノ規定ニ適用ナキモノニ付指定期日  
後ニ賃金基準ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ  
賃金基準ヲ以テ指定期日ノ賃金基準ト看  
做ス

雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動  
員法第三十一條ノ規定ニ基キ指定期日後  
ニ定ムル賃金基準ヲ地方長官ニ報告スベ  
シ  
地方長官前項ノ規定ニ依リ報告シタル賃  
金基準ヲ指定期日ニ於ケル賃金ニ關スル  
實情ニ鑑ミ不適當ト認ムルトキハ第九條  
ノ規定ニ適用ニ付之ニ代ルベキモノヲ定  
ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官  
ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ノ賃金基準  
ト看做ス  
第十二條 雇傭主其ノ雇傭スル勞務者ノ箇  
箇ニ付基本給又ハ賃金基準ヲ變更シテ賃  
金ヲ増サントスルトキハ命令ノ定ムル所

ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クベシ本令施  
行前其ノ雇傭スル勞務者ノ箇箇ニ付指定  
期日ノ基本給又ハ賃金基準ヲ變更シテ賃  
金ヲ増シタルトキ其ノ支給ニ付亦同ジ  
前項ノ規定ハ第十三條第一項若ハ第十四  
條第一項ノ規定ニ依リ報告シタル昇給内  
規ニ依リ昇給セシメ又ハセシメタル場合  
又ハ第十五條若ハ第十六條ノ規定ニ依リ  
昇給内規ノ定アルトキ之ニ依リ昇給セシ  
ムル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第十三條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ  
他ノ場所ニ於テ常時五十人以上ノ勞務者  
ヲ雇傭スル雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依  
リ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ  
其ノ雇傭スル勞務者ノ昇給内規ヲ地方長  
官ニ報告スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ報告シタル昇  
給内規ヲ指定期日ニ於ケル賃金ニ關スル  
實情ニ鑑ミ不適當ト認ムルトキハ前條第  
一項ノ規定ニ適用ニ付之ニ代ルベキモノ  
ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方  
長官ノ定ムルモノヲ以テ前項ノ規定ニ依  
リ報告シタル内規ト看做ス  
第十四條 前條ニ規定スル雇傭主以外ノ雇  
傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ雇傭ス  
ル勞務者ノ昇給内規ヲ地方長官ニ報告ス  
ルコトヲ得

内閣



前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル報  
告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 雇傭主相互間ニ於テ又ハ厚生大  
臣ノ指定スル組合若ハ團體ニ於テ勞務者  
ノ基本給、賃金基準又ハ昇給内規ノ定ヲ  
爲シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ其  
ノ雇傭主又ハ其ノ組合員若ハ團體員(組  
合又ハ團體ヲ組織スル組合又ハ團體ノ組  
合員又ハ團體員ヲ含ム)タル雇傭主ノ爲  
ス雇傭ニ於テハ其ノ定ニ依ルベシ但シ命  
令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在  
ラズ

第十六條 日日雇入レラルル者ノ賃金ニ付  
必要アル場合又ハ命令ヲ以テ定ムル場合  
ニ於テハ地方長官ハ道府縣賃金委員會ニ  
諮問シテ勞務者ノ基本給、賃金基準又ハ  
昇給内規ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十七條 前二條ノ規定ニ依ル定ニシテ勞  
務者ノ雇入ノ際ノ基本給以外ノ基本給ニ  
關スルモノナルトキ、雇入ノ際ノ基本給  
ニ關スルモノナルトキ、賃金基準ニ關ス  
ルモノナルトキ又ハ昇給内規ニ關スルモ  
ノナルトキハ其ノ定ヲ爲シタル事項ニ付  
各第四條ノ規定、第七條及第八條ノ規定、

第九條乃至第十一條ノ規定又ハ第十三條  
及第十四條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十八條 雇傭主第三條第二項ノ規定ニ依  
リ命令ヲ以テ定ムル賞與ニ關シ前年支給  
セザリシ時期ニ之ヲ支給セントスルトキ  
又ハ其ノ賞與率ヨリ前年同期ニ支給シタル  
賞與ノ賞與率ヨリ増加シテ之ヲ支給セン  
トスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方  
長官ノ許可ヲ受ケベシ

雇傭主其ノ雇傭スル勞務者ノ全部又ハ大  
部分ニ對シ時ヲ同ジクシテ臨時ノ給與ヲ  
爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依  
リ地方長官ノ許可ヲ受ケベシ

第十九條 雇傭主ハ何等ノ名義ヲ以テスル  
ヲ問ハズ第四條、第九條、第十二條、第十  
五條、第十六條及第十八條ノ規定ニ依ル  
制限ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十條 厚生大臣又ハ地方長官ハ國家總  
動員法第三十一條ノ規定ニ依リ賃金ノ狀  
況ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ  
工場、事業場、事務所、船舶其ノ他ノ場所  
ニ臨檢シ帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ  
得

查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス  
證票ヲ携帯セシムベシ

第二十一條 本令實施ニ關スル重要事項ニ  
付厚生大臣ノ諮問ニ應ズル爲賃金臨時措  
置調査委員會ヲ置ク

賃金臨時措置調査委員會ニ關スル規程ハ  
別ニ之ヲ定ム

第二十二條 本令ハ賃金統制令第五條ノ規  
定ニ依ル初給賃金ヲ受タル勞務者ニ關シ  
テハ之ヲ適用セズ

本令ハ賃金統制令第六條ノ規定ノ適用ヲ  
妨グズ

第二十三條 本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ  
適用セズ

本令ハ國際條約又ハ之ニ基ク協定中賃金  
ニ關スル定アルトキ其ノ制限ニ抵觸スル  
場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第二十四條 第十三條中同一ノ工場、事業  
場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時五十  
人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主下アル  
ハ船員ニ付テハ常時五十人以上ノ勞務者  
タル船員ヲ雇傭スル雇傭主トス

第二十五條 内地ニ於テ船員ニ關スルモノ  
ヲ除クノ外鑛業及砂鑛業ニ付テハ本令中  
地方長官トアルハ鑛山監督局長トシ道府  
縣賃金委員會トアルハ鑛山賃金委員會ト  
ス

内地ニ於テ船員ニ付テハ第十五條、第二

内  
閣



十條及第二十一條中厚生大臣トアルハ選  
借大臣トシ第七條及第十二條中地方長官  
トアルハ管海官廳トシ第八條、第十條、第  
十一條及第十三條乃至第十六條中地方長  
官トアルハ選信大臣ノ定ムル所ニ依リ選  
信大臣又ハ選信局長トシ第十八條中地方  
長官トアルハ選信局長トシ第二十條中地  
方長官トアルハ選信局長及管海官廳ト  
ス

第十六條中道府縣賃金委員會トアルハ船  
員法第一條第一項各號ニ掲グル船舶ニ乗  
組ム船員以外ノ船員ニ付テハ船員給料委  
員會トス

船員給料委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ  
定ム

第二十六條 本令中選信局長又ハ管海官廳  
ノ職權ニ屬スル事項ハ船員法第一條第一  
項各號ニ掲グル船舶ニ乗組ム船員ニ付テ  
ハ地方長官之ヲ行フ

第二十七條 本令中厚生大臣トアルハ朝  
鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各  
朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋  
廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在  
リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又  
ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋  
群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣ト  
アルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテ  
ハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群

島地方費トス

本令中地方長官トアルハ船員(船員法第  
一條第一項各號ニ掲グル船舶ニ乗組ム者  
ヲ除ク)ニ付テハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總  
督ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督府選信局長  
又ハ管海官廳、臺灣ニ在リテハ臺灣總督  
ノ定ムル所ニ依リ臺灣總督府交通局總長  
又ハ管海官廳トス

第二十八條 第十六條中道府縣賃金委員會  
ニ關スル規定及第二十一條ノ規定ハ朝  
鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セ  
ズ

附則

本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行  
ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテ  
ハ昭和十四年十月二十七日ヨリ之ヲ施行  
ス  
本令ハ昭和十五年十月十九日迄其ノ效力ヲ  
有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル  
罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效  
力ヲ有ス

内閣



參照

●健康保險法 (抄)

大正十一年四月二十二日  
法律第七十號

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於  
テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス  
標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(十一級)標準報酬 日額金貳千貳拾錢



内閣



閣甲第一八二號

案起

昭和五年六月三日

閣議決定

昭和十五年六月四日

施行

昭和

年

月

日

內閣總理大臣

齋藤實

內閣書記官長

內閣書記官

佐藤

外務大臣

齋藤實

陸軍大臣

齋藤實

文部大臣

齋藤實

遞信大臣

齋藤實

厚生大臣

齋藤實

內務大臣

齋藤實

海軍大臣

齋藤實

農林大臣

齋藤實

鐵道大臣

齋藤實

大藏大臣

齋藤實

司法大臣

齋藤實

商工大臣

齋藤實

拓務大臣

齋藤實

別紙國家總動員業務委員會規程  
中改正，件



右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十五年六月四日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年六月三日上申第一〇九號國家總  
動員業務委員會規程中改正ノ件上  
申ノ通閣議決定相成候



上申第一〇九號

昭和十五年六月三日

企書院總裁 竹 內 可 吉



內閣總理大臣 米 內 光 政 殿

昭和十三年九月二十三日閣議決定ニ係ル國家總動員業務委員會規程中  
別紙ノ通改正方御取計相成度此段及上申候

閣甲八二

內閣



國家總動員業務委員會規程中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

業務委員會ニハ必要ニ應ジ幹事長ヲ置クコトヲ得幹事長ハ企畫院高等官ノ中ヨリ企畫院總裁之ヲ指命ス

内閣



理由書

本規程ニ依リ設置シタル各種委員會中ニハ會議ノ構成、從來ニ於ケル會議ノ狀況等ニ鑑ミ其ノ運營ヲ一層圓滑迅速ナラシムル爲幹事長ヲ必要トスルモノヲ生ズルニ至リタルヲ以テ必要ニ應ジ之ヲ置キ得ル途ヲ拓ク爲本改正ヲ爲サントス



國家總動員業務委員會規程

第一條 國家總動員業務委員會（以下單ニ業務委員會ト稱ス）ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ各廳總動員業務ヲ調整統一シ其ノ適正圓滑ナル進行ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 業務委員會ハ國家總動員上必要ナル事項毎ニ企畫院總裁之ヲ設置ス

第三條 業務委員會ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 委員長ハ企畫院次長又ハ企畫院部長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ企畫院及關係各廳高等官ノ中ヨリ企畫院總裁之ヲ指命又ハ委囑ス

第五條 業務委員會ニ幹事ヲ置ク幹事ハ企畫院及關係各廳高等官ノ中ヨリ企畫院總裁之ヲ指命又ハ委囑ス

業務委員會ニハ必要ニ應ジ幹事長ヲ置クコトヲ得幹事長ハ企畫院高



等官ノ中ヨリ企書院總裁之ヲ指命ス

第六條 本規程ニ定ムルモノノ外職務委員會ニ關シ必要ナル事項ハ企書院總裁之ヲ定ム



國家總動員業務委員會規程第二條ニ依リ設置シタル各種委員會

會名	設置年月日	主管部	委員長	幹事長要否
物資動員委員會	昭和二三、一〇、一	第四部	第四部長	不要
貿易委員會	昭和二三、一〇、八	第五部	次長	要
資金統制委員會	昭和二三、一〇、一四	第五部	次長	要
總動員法制委員會	昭和二三、一一、五	第二部	次長	要
總動員計畫委員會	昭和二三、一一、一一	第二部	次長	要
人員動員委員會	昭和二三、一一、三〇	第三部	次長	要
交通電力動員委員會	昭和二三、一二、六	第六部	第六部長	要
資源回收委員會	昭和三四、一二、一〇	第四部	第四部長	不要
價格統制委員會	昭和三四、六、八	第五部	次長	要
科學動員委員會	昭和三四、一〇、一〇	科學部	次長	要
總動員警備委員會	昭和三五、五、一	第二部	第二部長	不要



備考

一、人員動員委員會ハ設置當初ハ勞務動員委員會ト稱シタリシモ昭和  
和一五三、二四現在ノ如ク改組改稱ス

二、交通電力動員委員會ハ近ク之ヲ改組シ交通動員委員會ト電力動  
員委員會トニ分チ前者ハ第六部後者ハ第四部ノ主管トスル見込ナ  
リ



# 參考

## 國家總動員業務委員會規程

昭和十三年九月二十三日  
閣議決定

第一條 國家總動員業務委員會（以下單ニ業務委員會ト稱ス）ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ各廳總動員業務ヲ調整統一シ其ノ適正圓滑ナル遂行ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 業務委員會ハ國家總動員上必要ナル事項毎ニ企畫院總裁之ヲ設置ス

第三條 業務委員會ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 委員長ハ企畫院次長又ハ企畫院部長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ企畫院及關係各廳高等官ノ中ヨリ企畫院總裁之ヲ指命又ハ委囑ス

第五條 業務委員會ニ幹事ヲ置ク幹事ハ企畫院及關係各廳高等官ノ中ヨリ企畫院總裁之ヲ指命又ハ委囑ス

第六條 本規程ニ定ムルモノノ外業務委員會ニ關シ必要ナル事項ハ企



書院總裁之ヲ定ム

内閣



極秘

七

閣下第八四號

案起

昭和十五年六月四日

閣議決定

昭和十五年六月四日施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣

山

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

山

陸軍大臣

山

文部大臣

山

遞信大臣

山

厚生大臣

山

內務大臣

山

海軍大臣

山

農林大臣

山

鐵道大臣

山

大藏大臣

山

司法大臣

山

商工大臣

山

拓務大臣

山

別紙企畫院總裁上申

米穀等特別輸入ニ関スル件



右閣議ニ供入於何種ノニ関スル

通牒案

昭和十五年六月四日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年六月三日企畫院上申第二二號上申  
米穀等、特別輸入ニ関スル件上申ノ通  
閣議決定相成候



企畫院上申第一一二號

昭和十五年六月三日

企畫院總裁 竹内可吉

內閣總理大臣 米內光政 殿

米穀等ノ特別輸入ニ關スル件

米穀需給ノ現状ニ鑑ミ米穀等ノ特別輸入ニ關シ別紙ノ通閣議決定相成  
様致度此段及上申候



主任、第四部 久保書記官

閣字一八四

內閣





米穀等ノ特別輸入ニ關スル件（案）

一、米穀等ノ特別輸入ニ付テハ昭和十四年十月三十一日、十二月八日及昭和十五年三月二十九日ノ閣議ニ於テ決定アリタル次第ナルガ五月一日現在在米高調査ノ實績ニ鑑ミルトキハ需給調整ノ爲尙外米等ノ輸入ヲ必要ト認メラルル處此際取り敢ヘズ百五十萬石程度ヲ概ネ八月中旬迄ニ緬甸、タイ、佛領印度等ノ諸國ヨリ輸入スルコトトシ今後ノ輸入ニ付テハ昭和十五年度物資動員計畫ニ於テ決定スルモノトス

二、今回ノ輸入所要資金ハ三千七百五十萬圓以内（金額ハ〇、一、F、價額トス）トシ昭和十五年度物資動員計畫ニ於ケル要輸入額ニ計上スルモノトス



甲  
 六五ノ  
 書類  
 添付

極祕文書送付票

企畫院上申第一二二號別紙

昭和十五年三月三日

企畫院總裁官房文書課長



内閣官房總務課長殿

左記文書送付候條御查收相成度候

極祕文書	
件名	米穀等特別輸送用紙
一連番號	自一八號
及部數	十八部



極  
秘

米穀等ノ特別輸入ニ關スル件（案）

一、 米穀等ノ特別輸入ニ付テハ昭和十四年十月三十一日、十二月八日及昭和十五年三月二十九日ノ閣議ニ於テ決定アリタル次第ナルガ五月一日現在在米高調査ノ實績ニ鑑ミルトキハ需給調整ノ爲尙外米等ノ輸入ヲ必要ト認メラルル處此際取り敢ヘズ百五十萬石程度ヲ概ネ八月中旬迄ニ緬甸、タイ、佛領印度等ノ諸國ヨリ輸入スルコトトシ今後ノ輸入ニ付テハ昭和十五年度物資動員計畫ニ於テ決定スルモノトス

二、 今回ノ輸入所要資金ハ三千七百五十萬圓以内（金額ハ〇、一、千、價額トス）トシ昭和十五年度物資動員計畫ニ於ケル要輸入額ニ計上スルモノトス



閣甲第一九一號

案起

昭和十五年六月七日

閣議決定  
昭和十五年六月七日施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣

五

內閣書記官長

內閣書記官



外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

遞信大臣

五

厚生大臣

五

內務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣



拓務大臣

五

別紙企畫院總裁上申

昭和十六年度重要事項、豫算統制



二關スル件  
右閣議ニ供ス

通牒案(一)

昭和十五年六月七日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年六月六日上申(企畫院上申第一一五號) 昭



和十六年度重要事項ノ豫算統制ニ關  
スル件上申ノ通閣議決定相成候

通牒案(二)

昭和十五年六月七日

内閣書記官長

~~各省長官~~

法制局長官

宛(各通)

昭和十六年度重要事項ノ豫算統制ニ關



凡件別紙、通閣議決定相成候條依  
命此段及通牒候

（印）

内閣書寫官

明治二十一年三月八日

監款 兼 三

凡件一由、内閣議決、決定相成候條依  
命此段及通牒候



企畫院上申第一一五號

昭和十五年六月六日

主任 第一部 戸田書記官

企畫院總裁 竹内可吉

内閣總理大臣 米内光政 殿



昭和十六年度重要事項ノ豫算統制ニ關スル件

昭和十六年度重要事項ノ豫算統制ニ關シ別紙ノ通閣議決定相成様致度  
院官制第一條第一項第三號ニ依リ此段及上申候

内閣



極秘

1

昭和十六年度重要事項豫算統制大綱案

現下内外ノ情勢ニ鑑ミ昭和十六年度重要事項ノ豫算ノ統制上準據スベキ方針ノ大綱左記ノ通定ム。地方費豫算ニ付テモ亦之ニ準ズ

記

- 一、昭和十六年度ニ於テ實施スベキ重要政策策定ニ當リテハ支那事變ノ處理及綜合國力ノ擴充強化ノ爲必要ナル新規事業ニ重點ヲ置キ既定ノ行政内容ニ對シテハ新ナル觀點ニ立チ徹底的整理ヲ圖リ其ノ再編成ヲ斷行スルコト
- 二、物資、資金及勞務ノ需給關係、國際收支ノ狀況竝ニ物價ニ及ボス影響等ヲ充分較量シテ、國家ノ綜合經濟力ニ立脚セル豫算ヲ策定スルコト



參照

企畫院官制

(昭和十二年十月二十五日  
勅令第六百五號)

第一條 企畫院ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

(中略)

三 平戰時ニ於ケル綜合國力ノ擴充運用ニ關スル重要事項ノ豫算ノ  
統制ニ關シ意見ヲ具ヘテ内閣總理大臣ヲ經テ内閣ニ上申スルコト

内



極祕文書送付票

企畫院上申第一二號別紙

昭和十五年之月之日

企畫院總裁官房文書課長



內閣官房總務課長殿

左記文書送付候條御查收相成度候

極祕文書		件名	昭和十五年九月二十日
及一連番號	部	及一連番號	部
至一八號	部	自一八號	部

此等文書係極祕文書



昭和十六年度重要事項、豫算統制之関スル件 (企畫院上) (九一六号)

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
鐵道大臣	逓信大臣	商工大臣	農林大臣	文部大臣	司法大臣	海軍大臣	陸軍大臣	大藏大臣	内務大臣	外務大臣	總理大臣	學議
	"	"	"	"	"			"	昭和十五、十六、十七年度 企畫院返戻			
								18	17	16	15	14
								企畫院總裁	法制局長官	書記官長	厚生大臣	拓務大臣
									"	"		昭和十五、十六、十七年度 企畫院返戻

内閣